

だんだん暑さがやわらぎ、秋の行楽シーズンがやってきました。しかし、この過ぎぬやまい秋はマダニにとっけて産卵シーズン。若ダニ、幼ダニが多く発生する時期でもあります。そこでマダニが媒介する病気「SFTS」について詳しく紹介したいと思います。

SFTS

(重症熱性血小板減少症候群)

今年7月、西日本にて野良猫に咬まれた女性がSFTSを発症し、その後死亡したという事例が確認されました。猫から人への感染が明らかになったのは世界初とされています。

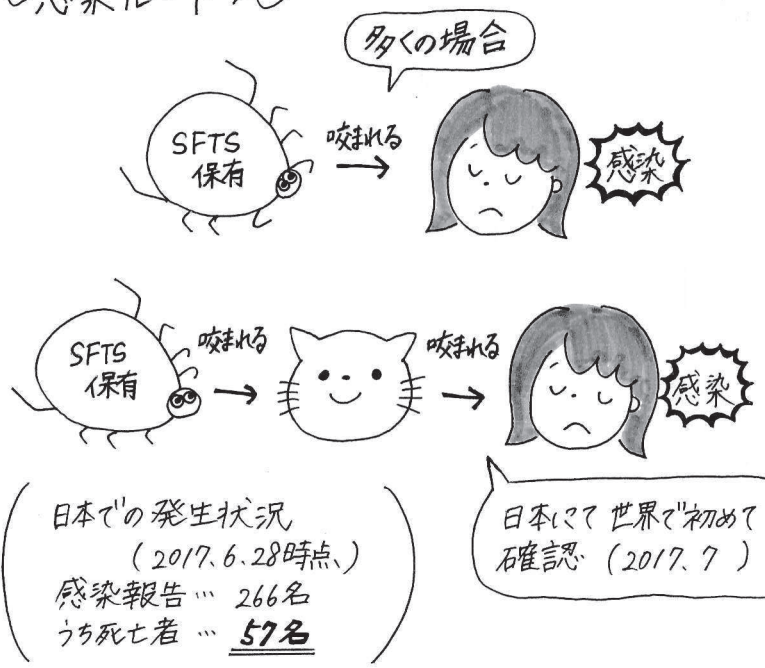
SFTSとは

2011年、中国の研究者により特定された人間の病気。フグニヤウイルス科フレボウイルス属というウイルスをダニが媒介。

感染経路

多くの場合、SFTSウイルスを保有するダニに咬まれることで感染。また、血液等の患者体液との接触により、人から人への感染も報告されている。致死率は約30%。

感染ルート



症状

- ・発熱
 - ・消化器症状 (嘔吐、嘔気、下痢、腹痛等)
 - ・神経症状 (意識障害、失語、ケイレン等) ↓ 予後不良
 - ・出血症状 (皮下出血、下血等)
 - ・頭痛
 - ・筋肉痛
 - ・リンパ節腫脹
 - ・白血球、血小板の減少 (血液検査にて)
- 主徴



治療

有効なワクチン、薬剤は残念ながら現在はまだありません。薬剤は残念ながら現在はその為、症状に応じての治療 (対症療法) となります。

予防

まずはダニに刺されないよう、草むら、植えこみには山間部や森林、公園や草むら、そのような場所へ行く際には、長袖、長ズボン、肌の露出を控える服装など対策を、必ず行いましょう。また、ダニに咬まれた場合は、患部を洗い、消毒し、皮膚科などの医療機関を受診しましょう。

マダニを介して発症する病気は、人も犬も猫も多々あります。感染症を防ぐためにも、猫も犬もダニの予防は、愛犬・愛猫のためにも必要です。私たちの健康を守るためにも必要なので、涼しくなり、外に出かける機会も増えてくるかと思えます。毎月の予防薬、駆虫薬を最後まで忘れず、